

令和 3 年度 異常気象分析検討会（第 2 回） 議事概要

1. 開催日時

令和 4 年 3 月 11 日（金）14：00～16：00

2. 開催場所

気象庁会議室 3（気象庁 11 階）

※テレビ会議システムによる開催

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

(1) 今年度の活動報告及び来年度の活動計画について

令和 3 年度の活動報告及び令和 4 年度の活動計画について、資料 1 を用いて検討を行い了承された。

(2) ラニーニャ現象のまとめ

令和 3 年秋から続いているとみられるラニーニャ現象¹による世界の天候への影響について、資料 2 を用いて検討を行った。ラニーニャ現象の影響と考えられる天候の偏りは以下のとおり。

令和 3 年秋（令和 3 年 9 月～11 月）：

高温：オーストラリア北東部～ポリネシア南部、北米中部～東部

低温：アラスカ～カナダ西部

多雨：オーストラリア東部～ニューカレドニア

少雨：アラビア半島付近

令和 4 年冬（令和 3 年 12 月～令和 4 年 2 月）：

高温：ニュージーランド付近～ポリネシア南部

低温：カナダ西部

多雨：インドシナ半島～フィリピン付近、カナダ南部

少雨：メキシコ～米国南部

¹ 令和 3 年（2021 年）秋から続いているとみられるラニーニャ現象は、令和 4 年（2022 年）3 月時点では現象発生の定義をまだ厳密には満たしていないが、本資料では便宜上「ラニーニャ現象」と表記する。

(3) 今冬の天候と大気循環場の特徴

令和4年冬（令和3年12月～令和4年2月）の日本海側を中心とした大雪や東・西日本の低温をもたらした大規模な大気の流れについて、資料3を用いてその要因を分析し、報道発表資料「令和4年冬の天候の特徴とその要因について」（令和4年3月14日発表）²のとおり見解を取りまとめた。概要は以下のとおり。

- ・日本付近では高緯度帯と中緯度帯の偏西風がともに南へ蛇行する状態が続き、日本列島に強い寒気が流れ込みやすくなった。この偏西風の蛇行には、東シベリア上空のブロッキング高気圧の形成や、ラニーニャ現象に伴う太平洋熱帯域の積雲対流活動からの影響が関わったものと考えられる。さらに、ユーラシア大陸上で高緯度帯と中緯度帯の偏西風が持続的に蛇行したことも影響したと考えられる。

² <https://www.jma.go.jp/jma/press/2203/14b/kentoukai20220314.html>

令和3年度 異常気象分析検討会（第2回） 出席者

異常気象分析検討会 委員

◎	なかむら 中村	ひさし 尚	東京大学先端科学技術研究センター 教授
○	たかやぶ 高敷	ゆかり 縁	東京大学大気海洋研究所 教授
	いしかわ 石川	いちろう 一郎	気象研究所全球大気海洋研究部第二研究室長
	うえだ 植田	ひろあき 宏昭	筑波大学生命環境系 教授
	かわむら 川村	りゅういち 隆一	九州大学大学院理学研究院 教授
	きもと 木本	まさひで 昌秀	国立環境研究所 理事長
	たにもと 谷本	よういち 陽一	北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授
	つぼき 坪木	かずひさ 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授
	のなか 野中	まさみ 正見	海洋研究開発機構アプリケーションラボ グループリーダー
	ひろおか 廣岡	としひこ 俊彦	九州大学大学院理学研究院 教授
	むこうがわ 向川	ひとし 均	京都大学大学院理学研究科 教授
	わたなべ (渡部)	まさひろ 雅浩	東京大学大気海洋研究所 教授 (は欠席)

(◎：会長、○会長代理、敬称略、会長・会長代理以外は五十音順)

気象庁

大気海洋部

部長

業務課長

気候情報課長、異常気象情報センター所長

環境・海洋気象課長、海洋気象情報室長

予報課長

気象リスク対策課長

情報基盤部

数値予報課 地球システムモデル技術開発室長

気象研究所 気候・環境研究部長

その他関係官